

龍谷大学里山学研究センター 2022年度 年次報告書

## 里山学研究

# 「人新世」を生きる わたしたちと自然のこれから



# 巻 頭 言

森のある大学 龍谷大学里山学研究センター センター長

村澤真保呂

今年度は、龍谷大学の「2020年度重点強化型研究推進事業」として採択された「〈人新世〉時代の新・里山学の創造—新たな〈自然〉概念構築と〈自然との対話〉方法論の確立に向けた文理融合研究」プロジェクトの最終年度にあたる。本プロジェクトは、開始直後のコロナ禍によって当初は進捗が危ぶまれたが、研究員たちの努力と創意工夫により、さまざまな障害を乗り越え、多くの成果を残すことができた。

この3年間という短い期間のあいだにも、本プロジェクトを取り巻く外的状況は大きく変わった。先に述べたコロナ禍は、自然環境破壊による野生動物から人間界へのウィルスの侵入が原因であることから、今後の第二、第三の新型ウイルスによるパンデミックが起こる危険性が懸念され、人類の持続可能性に大きな影を落としている。また2022年初頭にはじまるウクライナにおける紛争は、過去30年近く続いていたグローバル経済の成長にストップをかけたのみならず、地球規模の課題に取り組むための国際的な政治的協力基盤を弱体化させ、今後の地球環境問題への国際的な取り組みに暗雲をもたらしている。

他方、「新たな〈自然〉概念の構築」と「〈自然との対話〉方法論」の確立という本プロジェクトの主題は、この3年間のうちに環境保全に関わる国際的な政策や学術の領域において、いよいよ喫緊の課題として認識されるようになった。すなわち自然環境保全の領域において、自然環境の保全と伝統文化の保全を一体的に捉える必要性がいつそう明白に認識され、そこから自然科学と人文学を融合する新たな知のあり方をめぐる学術的議論も急激に増加している。そのことは、従来の「人間／自然」を対立的に捉える近代の知のあり方を根底から刷新し、新たな人間と自然の関係を結ぶ視座が求められていることを意味する。

本センターが研究対象として取り組んできた「里山」は、自然と文化の融合した「二次的自然」と呼ばれる領域である。本プロジェクトは、これまでの本センターにおける「二次的自然」を研究する「里山学」の蓄積を活かし、現代的・国際的課題に対応する「新・里山学」へとアップデートを図ることを狙いとした。今回の成果が来年度の新たなプロジェクトの基盤となり、本センターの研究のさらなる飛躍につながることを願ってやまない。

## 目 次

巻頭言	村澤真保呂	
目 次		
1. プロジェクト最終研究成果報告会（第4回研究会）		
(1) プロジェクト最終研究成果報告会		
「最終報告と次年度に向けた課題についての検討会」		
1) プログラム		3
2) プロジェクト最終研究成果報告会	村澤真保呂	4
3) 自然の多元的価値・人間/非人間のエージェンシー・ウェルビーイング		
	伊達浩憲	5
4) 森の診断を通じて森と住民との「対話」を支援する方法論の構築		
	鈴木龍也	6
5) 活動報告	中川晃成	7
6) 河川と河原の生物	太田真人	8
7) その他研究成果・研究経過報告		
	村澤真保呂・林 珠乃・谷垣岳人・小峯 敦・田岡由美子 國府宏枝・秋山道雄・須川 恒・西脇秀一郎・林 竜馬 稲永祐介・占部武生・好廣眞一・丸山徳次・猪谷富雄 田中 滋	9
2. シンポジウム		
(1) 2021年度森のある大学龍谷大学里山学研究センター公開シンポジウム		
1) プログラム		21
2) 「持続可能性を高めるための地域市民活動の現在 —多様な人々の潜在力を活かすには？」	村澤真保呂	22
(2) International Symposium Chaososemedia in Japan 2022		
1) プログラム		23
2) 報告：国際シンポジウム 「Chaososemedia in Japan 2022」（里山学研究センター共催）		
	村澤真保呂	24
3. 研究会・里山サロン		
1. 研究会リスト		29
(1) 2021年度第4回研究会		
近年の「脱資本主義論」—ケインズの長期的洞察力に関連して		
	小峯 敦	32

(2) 第1回研究会		
ミスコンセプションからシチズンサイエンスへ		
—教育を変える 天体・気象分野の事例から—	滋野哲秀	35
(3) 第2回研究会		
「EUとドイツにおける持続可能な農業を展望する政策と法」		
1) EUにおける「農場から食卓」戦略とドイツのエコロジー農業の将来戦略	Cara von Nolting・José Martinez	36
2) 家族経営の維持との緊張関係における農業の工業化	Friederike Heise・Jonas Lohstroh	38
(4) 第3回研究会		
「マラウイと日本における里山の取り組み」		
1) 生活のための里山：日本人による観察	林 珠乃	40
2) 生活の質のための里山：マラウイ人による観察	Marlene Chikuni	44
2. 里山サロンリスト		54
4. 学外団体との協働		
(1) 2021年度「龍谷の森」を通じた司法修習生への実務修習		
—京都弁護士会公害・環境保全委員会第74期選択的実務修習（自然保護部会）の実施—	村澤真保呂・牛尾洋也・伊達浩憲・宮浦富保・太田真人	57
(2) 「龍谷の森」を通じた司法修習生への実務修習		
—京都弁護士会公害・環境保全委員会第75期選択的実務修習（自然保護部会）の実施—	村澤真保呂・宮浦富保・林 珠乃・鈴木龍也・太田真人	60
(3) NPO法人シニア自然大学校「自然観察会」	太田真人・林 珠乃・宮浦富保	63
5. 研究活動報告		
(1) 「龍谷の森」里山保全の会 2022年度活動報告	林 珠乃・宮浦富保・谷垣岳人	67
(2) 経済格差、地域格差のなかの「遊べない子ども」と「遊べなかった子ども」		
—研究活動報告その3—	中根 真	69
(3) 鳥取県智頭町「森のようちえん まるたんぼう」の見学報告	田岡由美子	76
(4) 琵琶湖流入河川におけるトウヨシノボリの主鰓蓋骨を用いた年齢推定調査	太田真人・遊磨正秀	81
(5) ミスコンセプションからシチズンサイエンスへ		
—教育を変える 天体・気象分野の事例から—	滋野哲秀	83
(6) 協同組合間連携と愛媛大学の協同組合論講座	西脇秀一郎	91
(7) 城陽市青谷での里山活動とまちづくり〈2022年度〉	好廣真一	98
(8) その他研究業績一覧		105

6. 研究論文

- (1) 1896（明治29）年琵琶湖大増水を記録する  
—伊香・西浅井郡役場の見た高時川流域— 中川晃成…………… 113
- (2) 人新世の自然保護—新生態学と里山学— 丸山徳次…………… 130

6. 活動日誌…………… 153

- (1) 運営会議
- (2) シンポジウム
- (3) 研究会
- (4) 里山サロン

表紙写真

# ■ 1. プロジェクト最終研究 成果報告会



## プログラム

### 里山学研究センタープロジェクト最終研究成果報告会

2023年1月14日開催 龍谷大学深草学舎至心館1階／オンライン

- 13:30      あいさつ  
「最終年度の報告と次期プロジェクトの概要（総括と展望）」  
村澤真保呂（龍谷大学社会学部・教授 里山学研究センター・センター長）
- 研究成果報告  
「自然の多元的価値・人間/非人間のエージェンシー・ウェルビーイング」  
報告者 伊達浩憲（龍谷大学経済学部・教授 里山学研究センター・副センター長）
- 「森の診断を通じて森と住民との「対話」を支援する方法論の構築」  
報告者 鈴木龍也（龍谷大学法学部・教授 里山学研究センター・研究員）
- 「活動報告」  
報告者 中川晃成（龍谷大学先端理工学部・講師 里山学研究センター・副センター長）
- 「河川と河原の生物」  
報告者 太田真人（里山学研究センター・博士研究員）
- 休憩
- 研究紹介・報告とディスカッション  
報告者 里山学研究センター研究員（全員）
- 閉会のあいさつ 村澤真保呂
- 17:30      終了

## ■ 2. シンポジウム





## プログラム

龍谷大学里山学研究センター 公開シンポジウム

2022年3月13日開催 オンライン

- 総合司会 伊達浩憲（龍谷大学経済学部・教授 里山学研究センター・副センター長）
- 14:00 あいさつ・主旨説明
- 14:10 「都市住民と自然をどう結ぶか」  
講師 小川雅由氏（NPO法人子ども環境活動支援協会（LEAF）・専務理事  
西宮市立甲山自然環境センター・センター長）
- 14:50 休憩
- 14:55 「都市型里山保全の取り組み」  
講師 田村和也氏（里と水辺研究所・主任研究員）
- 15:25 「伝統的漁師町から学んだ『持続可能性』」  
講師 松谷真弓氏（アプローチ株式会社・代表取締役）
- 15:55 休憩
- 16:00 ディスカッション／質疑応答  
ディスカッサント 松田頼彦氏（NPO法人美しいふるさとを創る会・事務局長  
株式会社ヤスダハンズ・会長）
- 総合司会 村澤真保呂
- 16:30 終了

## プログラム

龍谷大学里山学研究センター共催

International Symposium Chaososemedia in Japan 2022

2022年10月20日開催

### Part1

Online presentation (and You Tube)

Date : Thursday, October 20th 23:00-25:00

Language : English [with subtitle].

Presenter : Yuki KAGAWA, Mahoro MURASAWA, Joff BRADLEY, Keiichiro ARIMA,  
Keisuke OTANI, Yuki TANAKA

### Part2

Open Symposium in Kyoto (and YouTube)

Date : Saturday, October 22th, 10:00-15:00

Location : Ryukoku University (Omiya, Toko Bldg. 302)

Moderator : Yuki KAGAWA

Presenter : Masaaki SUGIMURA, Takuya MATSUMOTO, Mamoru ITO,  
Mahoro MURASAWA, Kazunori KONDOU

**Main Organizer:** Chaososemedia (International Association for Guattari Studies)

<https://chaososemedia.net/site/>

**Japanese Organizer:** Osaka University, Project for “Training the next generation of ambitious researchers”

<https://itgp.osaka-u.ac.jp/jisedai/>

**Japanese Co-organizer:** Ryukoku University Research Center for Satoyama Studies

<https://satoyama.kenkyu.ryukoku.ac.jp/>

**Contact:** [chaososemedia.japan@gmail.com](mailto:chaososemedia.japan@gmail.com)

### ■ 3. 研究会報告



## 1. 研究会リスト

(※) 2021年度第4回研究会 ※今年度掲載

「淀川水系の流域治水を考える—どうすれば命も環境も守れるのか—」

開催日：2022年3月9日（水）

場所：オンライン開催

講演者：小峯 敦（龍谷大学経済学部・教授 里山学研究センター・研究員）

「近年の〈脱資本主義論〉：ケインズの長期的洞察力に関連して」

コメンテーター：石倉 研（龍谷大学政策学部・講師）

1) 第1回研究会

開催日：2022年7月20日（水）

場 所：オンライン開催

講演者：滋野哲秀（(公財) 大学コンソーシアム京都・高大連携コーディネーター）

里山学研究センター・客員研究員）

「ミスコンセプションからシチズンサイエンスへ

—教育を変える天体・希少分野の事例から—」

コメンテーター：多賀 優（龍谷大学農学部・教授）

2) 第2回研究会「EUとドイツにおける持続可能な農業を展望する政策と法」

文部科学省科学研究費・基盤研究B「農地の法的社会的管理システムの比較研究（榎澤能生代表）」共催

開催日：2022年9月7日（水）

場 所：深草学舎和顔館4階会議室3

報告者：Cara von Nolting/José Martinez（ゲッチンゲン大学農業法研究所）

「EUにおける「農場から食卓」戦略とドイツのエコロジー農業の将来戦略」

報告者：Friederike Heise/Jonas Lohstroh（ゲッチンゲン大学農業法研究所）

「家族経営の維持との緊張関係における農業の工業化」

3) 特別公開研究会（環境大臣賞受賞記念講演会）

開催日：2022年9月24日（土）

場 所：ハイブリッド開催（深草学舎和顔館4階会議室1・オンライン）

講演者：高桑 進（京都女子大学・名誉教授 里山学研究センター・客員研究員）

「京都の忘れ去られた里山:「京女の森」と「京女鳥部の森」での環境教育の実践」

4) 第3回研究会「マラウイと日本における里山の取り組み」

JST-JICA SATREPS「マラウイ湖国立公園における統合自然資源管理に基づく持続可能な地域開発モデル構築」共催

開催日：2022年12月21日（水）

場 所：オンライン開催

報告者：林 珠乃（龍谷大学先端理工学部・実験講師 里山学研究センター・副センター長）

「生活のための里山：日本人による観察」

報告者：Marlene Chikuni（マラウイ大学チャancellor校・講師）  
「生活の質のための里山：マラウイ人による観察」

5) 第4回研究会（プロジェクト最終研究成果報告会）

「最終報告と次年度に向けた課題についての検討会」

開催日：2023年1月14日（土）

場 所：ハイブリッド開催（深草学舎至心館1階フリースペース・オンライン）

報告者：伊達浩憲（龍谷大学経済学部・教授）

「自然の多面的価値・人間/非人間のエージェンシー・ウェルビーイング」

報告者：鈴木龍也（龍谷大学法学部・教授 里山学研究センター・研究員）

「森の診断を通じて森と住民との「対話」を支援する方法論の構築」

報告者：中川晃成（龍谷大学先端理工学部・講師 里山学研究センター・副センター長）

「活動報告」

報告者：太田真人（里山学研究センター・博士研究員）

「河川と河原の生物」

その他研究成果・研究経過報告

村澤真保呂（龍谷大学社会学部・教授 里山学研究センター・センター長）

林 珠乃（龍谷大学先端理工学部・実験講師 里山学研究センター・副センター長）

谷垣岳人（龍谷大学政策学部・准教授 里山学研究センター・研究員）

小峯 敦（龍谷大学経済学部・教授 里山学研究センター・研究員）

鈴木 滋（龍谷大学国際学部・教授 里山学研究センター・研究員）

國府宏枝（龍谷大学先端理工学部・教授 里山学研究センター・研究員）

田岡由美子（龍谷大学短期大学部・教授 里山学研究センター・研究員）

秋山道雄（滋賀県立大学・名誉教授 里山学研究センター・客員研究員）

高桑 進（京都女子大学・名誉教授 里山学研究センター・客員研究員）

西脇秀一郎（愛媛大学・講師 里山学研究センター・客員研究員）

須川 恒（里山学研究センター・客員研究員）

林 竜馬（滋賀県立琵琶湖博物館・専門学芸員 里山学研究センター・客員研究員）

滋野哲秀（（公財）大学コンソーシアム京都・高大連携コーディネーター

里山学研究センター・客員研究員）

稲永祐介（里山学研究センター・嘱託研究員）

占部武生（龍谷大学・名誉教授 里山学研究センター・研究フェロー）

好廣真一（龍谷大学・名誉教授 里山学研究センター・研究フェロー）

丸山徳次（龍谷大学・名誉教授 里山学研究センター・研究フェロー）

猪谷富雄（県立広島大学・名誉教授 里山学研究センター・研究フェロー）

田中 滋（龍谷大学・名誉教授 里山学研究センター・研究フェロー）

遊磨正秀（龍谷大学・名誉教授 里山学研究センター・研究フェロー）

## 6) 第5回研究会「フットパス再論—歩き交わる地域観光の創造」

開催日：2023年2月20日（月）

場 所：深草学舎和顔館4階会議室3

報告者：前川啓治（筑波大学・教授）

「歩き交わる地域観光の創造—フットパスの展開を中心に」

報告者：鈴木龍也（龍谷大学法学部・教授 里山学研究センター研究員）

「フットパスとアクセス・ランド—イギリスにおけるカントリーサイドへの  
パブリック・アクセス制度の展開」

報告者：塩路有子（阪南大学・教授）

「「歩くこと」と「コミュニティづくり—英国のフットパスとWalkers are  
Welcome活動—」

報告者：久保由加里（大阪国際大学・教授）

「つむぐ絆で中山間地域を元気に—フットパスが創る観光交流空間—」

報告者：廣川祐司（北九州市立大学・准教授）

「日本におけるフットパスの広がり—新たな観光を担う人材育成—」

## 2. 里山サロンリスト

1) 第1回里山サロン

開催日：2022年4月12日（火）

場 所：オンライン開催

講演者：稲永祐介（里山学研究センター・嘱託研究員）

「保全と管理のテクノロジー：

フランスにおける生物多様性をめぐるガバナンス」

2) 第2回里山サロン

開催日：2022年6月25日（土）

場 所：オンライン開催

講演者：村澤真保呂（龍谷大学社会学部・教授 里山学研究センター・センター長）

「科研費申請に向けた研究テーマについて」

3) 第3回里山サロン

開催日：2022年7月27日（水）

場 所：オンライン開催

講演者：Thomas LEI（龍谷大学先端理工学部・教授 里山学研究センター・研究員）

「気候変動下で樹木の苗木の適応度と生存率は低下するのか？

新しい定量的アプローチ」

4) 第4回里山サロン

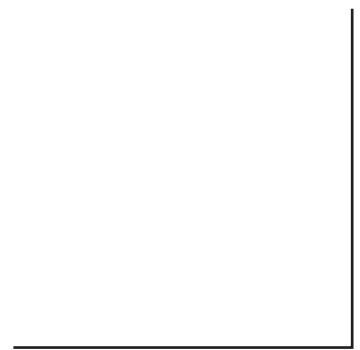
開催日：2022年10月10日（月・祝）

場 所：オンライン開催

講演者：丸山徳次（龍谷大学・名誉教授 里山学研究センター・研究フェロー）

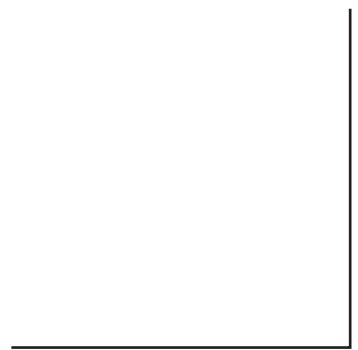
「〈人新世〉時代における新生態学と里山学」

## ■ 4. 学外団体との協働





## ■ 5. 研究活動報告



## その他研究業績一覧

### 1. 研究論文・図書リスト

#### (1) 査読付き論文リスト（口頭発表のための資料集に掲載された論文等は含めない）

- [1] 村澤真保呂、“自然環境問題と精神疾患：里山研究からの視点”、「こころと文化（多文化間精神医学会誌）Vol.21 No.1、pp.19-29（2022年2月）
- [2] 村澤真保呂、“19世紀フランス社会学が照らす現代のエコロジー問題：心身並行論を手がかりに”、神戸大学社会学研究室編『社会学雑誌』第39号、pp.113-133（2023年3月）
- [3] Ke Zhang, Sarvesh Maskey, Hiromu Okazawa, Kiichiro Hayashi, Tamano Hayashi, Ayako Sekiyama, Sawahiko Shimada, Lameck Fiwa, “Assessment of Three Automated Identification Methods for Ground Object Based on UAV Imagery”, in *SUSTAINABILITY* 14 (21) 14603 (2022年11月)
- [4] Ke Zhang, Hiromu Okazawa, Kiichiro Hayashi, Tamano Hayashi, Lameck Fiwa, Sarvesh, “Masked Optimization of Ground Control Point Distribution for Unmanned Aerial Vehicle Photogrammetry for Inaccessible Fields”, in *SUSTAINABILITY* 14 (15) 9505 (2022年8月)
- [5] 小峯敦、“2010年代以降の「新しい資本主義論」～経済学史からの展望”、経済学史研究 Vol.64 No.2、pp.70-103（2023年1月）
- [6] 丸山徳次、“「緩慢な暴力」と正当防衛”、関西倫理学会編『倫理学研究』第52号、pp.41-51（2022年6月30日）
- [7] 久保星・福岡太一・太田真人・遊磨正秀、“木津川下流域におけるコクチバス当歳魚の食性#”、魚類学雑誌 69 (1) pp.69-74（2022年4月）
- [8] 林竜馬、“滋賀県の遺跡花粉データベースからみる地域・局所スケールの植生変遷史”、第四紀研究（掲載確定：2023年）

#### (2) その他の誌上発表リスト（図書を除く、査読のない雑誌等）

- [1] 村澤真保呂、“人間と自然の二元論を超えて：「人新世」から読み解くラトゥールの思想（仮）”、『現代思想』（掲載確定：2023年3月発行予定）
- [2] 村澤真保呂、“植物と移民のあいだ：藤原辰史『植物考』書評”、『図書新聞』（掲載確定：2023年2月発行予定）
- [3] 村澤真保呂、“「二次的自然」から考える持続可能性”、『TASC Monthly』No.560 pp.6-12（2022年8月1日）
- [4] 村澤真保呂、“霊性のエコロジー（15）”、『福音と世界』Vol.77 No.1、pp.50-55（2022年4月1日）
- [5] 村澤真保呂、“霊性のエコロジー（16）”、『福音と世界』Vol.77 No.1、pp.50-55（2022年5月1日）
- [6] 村澤真保呂、“霊性のエコロジー（17）”、『福音と世界』Vol.77 No.1、pp.50-55（2022年6月1日）

- [7] 村澤真保呂、“霊性のエコロジー (18)”, 『福音と世界』 Vol.77 No.1, pp.50-55 (2022年7月1日)
- [8] 村澤真保呂、“霊性のエコロジー (19)”, 『福音と世界』 Vol.77 No.1, pp.50-55 (2022年8月1日)
- [9] 村澤真保呂、“霊性のエコロジー (20)”, 『福音と世界』 Vol.77 No.1, pp.50-55 (2022年9月1日)
- [10] 村澤真保呂、“霊性のエコロジー (21)”, 『福音と世界』 Vol.77 No.10, pp.50-55 (2022年10月1日)
- [11] 村澤真保呂、“霊性のエコロジー (22)”, 『福音と世界』 Vol.77 No.11, pp.50-55 (2022年11月1日)
- [12] 村澤真保呂、“霊性のエコロジー (23)”, 『福音と世界』 Vol.77 No.12, pp.50-55 (2022年12月1日)
- [13] 村澤真保呂、“霊性のエコロジー (24)”, 『福音と世界』 Vol.78 No.1, pp.50-55 (2023年1月1日)
- [14] 村澤真保呂、“霊性のエコロジー (25)”, 『福音と世界』 Vol.78 No.3, pp.50-55 (掲載確定: 2023年3月1日)
- [15] 谷垣岳人、“私たちの選択で蘇る、生き物賑わう田んぼ”, 『月刊アゴラ』 383号 (2022年6月)
- [16] Masahide Yuma, “Kumejima firefly (*Luciola owadai*)”, in *FANTASTIC FRESHWATER : 50 Landmark Species for Conservation*, IUCN, 14 (1), pp.46-47, (2022年5月)
- [17] 遊磨正秀、“短・長波長の人工光がAquaticaficta [中国名: 黄緣螢] の発光に与える影響 [ホテル関連国外論文紹介]”, 全国ホテル研究会誌 55 pp.41-43 (2022年6月)
- [18] 秋山道雄、“琵琶湖赤野井湾における水環境問題の輻輳—生態系サービスの変化を中心に—”, 『地域と生活Ⅲ』 (岡山大学創立70周年記念地理学論集), pp.87-103 (2022年4月30日)
- [19] 須川恒・上西実、“伏見稻荷大社の鳥類、人とのかわり”, 朱65号 pp.135-146 (2022年10月)
- [20] 須川恒、“冠鳥の定期調査におけるオオミズナギドリへの標識調査の趣旨と手順”, *Alula* No.64 pp.29-38 (2022年4月)
- [21] 須川恒、“鳥類標識調査の可能性を探る—翼にたくす地球の未来—”, *Alula* No.65 pp.39-51 (2022年9月)
- [22] 須川恒、“ガン類の渡りを解明する国際共同調査への架け橋 (講演骨子)”, 山階鳥研 NEWS 305号, 山階芳麿賞記念シンポジウム報告 pp.6-7, (質疑pp.7-8) (2023年1月1日)
- [23] 西脇秀一郎、“区分所有者以外の居住者の団体”, 『マンション判例百選 (別冊ジュリスト 259号)』 pp.200-201 (2022年8月31日)
- [24] 西脇秀一郎、“区分所有者の謄写 (複写) 請求権”, 愛媛大学法文学部論集社会科学編 No.53 pp.1-26 (2022年9月30日)
- [25] 西脇秀一郎、“民法672条 2項における業務執行組合員の解任”, 政策創造研究No.17 (投稿中)
- [26] 林竜馬、“滋賀県の遺跡花粉データベースからみる人と集落生態系の相互関係史”, 号外

地球Vol.71、pp.86-91（2022年2月）

- [27] 田中滋、“メタバースとは何か：仮想空間、観光、そして宗教”、『京佛』（夏季号）第112号（2022年8月1日）

### (3) 図書リスト

- [1] 村澤真保呂、“反精神医学からスキゾ分析へ：統合失調症と自然環境問題のあいだ”、古茶太樹・糸川昌成・村井俊哉編『統合失調症という問い：脳と心と文化』日本評論社 pp.185-208（2022年11月15日）
- [2] Atsushi Komine, “Unfinished Revolution in Policy : The Visionary Legacy of Lord Keynes” —in Stavros Drakopoulos and Ioannis Katselidis (eds.) *Economic Policy and the History of Economic Thought*, London: Routledge, pp. 189-205, (2023年3月)
- [3] 丸山徳次（共著）、『よくわかる現代科学技術史・STS』（塚原東吾・藤垣裕子・綾部広則・柿原泰・多久和理実編集）、6-2「科学の目的内在化」執筆、pp.158-159、ミネルヴァ書房（2022年2月25日）
- [4] 西脇秀一郎（共著）、『Nextロードマップ民法入門』（小川富之・矢島秀和編著）（第11章を担当、pp.144-160）、一学舎（2022年4月28日）
- [5] 林竜馬、“琵琶湖の森の40万年史—花粉が語るものがたり—”、サンライズ出版（2022年）

## 2. 口頭発表リスト

### (1) 査読付き国際会議における発表リスト

- [1] Mahoro MURASAWA, “Cartography for U: Philosophical reflections on Guattari’s concept of the ‘immaterial universe’”, Chaososemedia (International Association of Guattari Studies, France, online presentation)（2022年10月21日）
- [2] Mahoro MURASAWA, “Les enjeux de la biodiversité et la schizoanalyse de Félix Guattari”, École lacanienne de psychanalyse (Buenos Aires, Argentine)（2022年12月17日）
- [3] Tetsuhide Shigeno, “Why do Japanese Students Have Difficulties in Astronomical and Meteorological Fields? : Reform of teaching methods based on comprehension surveys of university and high school students”, International Conferences New Perspectives in Science Education Edition 12 (Florence (Italy))（2023年3月16日～17日）

### (2) その他の口頭発表リスト

- [1] 村澤真保呂、“自然環境と精神のあいだ：心身二元論から心身並行論へのパラダイム・シフト”、第118回日本精神神経学会学術総会（福岡市）（2022年6月16日）
- [2] 村澤真保呂、“ガタリ思想について：環境問題との関連から”、フェリックス・ガタリ思想研究国際学会 Chaososemedia in Japan（京都市）（2022年10月22日）
- [3] 村澤真保呂、“主観性と自然環境のあいだ：19世紀のフランス社会と社会学”、第95回日本社会学会大会（茨木市）（2022年11月12日）
- [4] 村澤真保呂、“芸術と自然環境：「異界」に着目して（仮）”、「グローバル化する現代社会における〈生の芸術〉の可能性：身＝心の危機と甦り」（京都市）（2023年2月10日）
- [5] 中川晃成、“淀川水系治水構想の源流と現在”、水資源・環境学会 2022年度 研究大会（京

- 都市・オンライン) (2022年6月4日)
- [6] 松下幸司・高橋卓也・林珠乃、”森林簿を用いた所有形態別資源分析の課題—所有形態区分コードについて”、第73回応用森林学会大会 (兵庫県神戸市) (2022年11月13日)
- [7] 小峯敦、“新しい資本主義論”の勃興～その構造変化、環境負荷、「脱資本主義論」を参照して”、近畿大学経済研究会 (大阪府東大阪市) (2022年12月21日)
- [8] 小峯敦、“基調講演～経済思想史の立場から”、龍谷大学国際社会文化研究所シンポジウム「公共性の危機と人文・社会科学の課題」(京都府京都市) (2023年1月18日)
- [9] William Duncan, Tomas Gedeon, Hiroshi Kokubu, Konstantin Mischaikow, Hiroe Oka, Equilibria and their Stability in Networks with Steep Sigmoidal Nonlinearities、日本数学会応用数学分科会 (札幌市) (2022年9月19日)
- [10] 遊磨正秀、“ゲンジボタルの生息環境～とくに人工照明との関係について～”、第4回ほくほうホテル学 (岡山県真庭市) (2022年10月23日)
- [11] 遊磨正秀、“銀閣寺疏水のゲンジボタル”、第一回哲学の道保勝会ホテル部会研修会 (京都市) (2022年11月13日)
- [12] 遊磨正秀、“特別講演 琵琶湖流入河川におけるトウヨシノボリ若魚の遡上と河川環境”、第43回稚魚研究会 (米原市) (2022年11月19日)
- [13] 遊磨正秀、“地域住民と進める環境教育活動”、平成4年度滋賀県小学校教育研究会 環境教育部会、実践交流大会 (大津市) (2022年11月23日)
- [14] 太田真人・遊磨正秀、“琵琶湖流入河川におけるトウヨシノボリの主鰓蓋骨を用いた年齢推定”、第70回日本生態学会大会 (仙台市、オンライン) (2023年3月予定)
- [15] 山本涼平・妹尾拓司・猪谷富雄、“有色米における炊飯後の色素成分および抗酸化活性の変化”、日本農芸化学会 関西支部 第522回講演会 (オンライン) (2022年9月16日)
- [16] 猪谷富雄、“雑草の種類と防除、身近な帰化植物の生態”、園芸大学・花と緑の学び舎講演、(大阪府大阪市) (2022年11月27日)
- [17] 須川恒、“一味違う世界湿地の日in湖北2022”、世界湿地の日in湖北2022 シンポジウム (オンライン) (2022年1月29日)
- [18] 須川恒、“渡り鳥は世界を結ぶPart14 『渡り鳥保護は世界を変えるか？—渡り鳥保護は反プーチンとつながるのか？』”、川西自然教室妙見山合宿連続講演 (オンライン、限定公開動画化 その1 その2) (2022年5月7日)
- [19] 須川恒、第22回山階芳麿賞記念シンポジウム「ガンが渡る風景を日本の空にもう一度～絶滅から復活の道を歩み始めた」(オンライン) (2022年9月23日)
- [20] 須川恒、シンポジウム「識別ガイドをめざしての最新のチャレンジに参加しよう！」趣旨説明・進行、日本鳥類標識協会2022年度全国大会 (オンライン) (2022年12月10日)
- [21] 須川恒、「大阪自然史フェスティバル2022におけるブース展示」、日本鳥類標識協会2022年度全国大会 (オンライン) (2022年12月10日)
- [22] 須川恒、“ツバメの集団ねぐらについて”、鳥類学大会2022自由集会「みんなで教えよう～ツバメの全国ねぐらカウント～」(オンライン) (2023年1月7日)
- [23] 西脇秀一郎、“団地管理組合法人における集会決議事項および規約事項の境界—最高裁平成31年3月5日判決の検討—”、末川民事法研究会 (京都市・オンライン) (2022年5月22日)
- [24] 西脇秀一郎、“「認可可地縁団体」制度と地域資源管理”、地域特性に基づく地域・森林資

- 源管理の法理論研究会（オンライン）（2022年11月9日）
- [25] 西脇秀一郎、“認可地縁団体による財産管理と近時の改正動向”、（東広島市・オンライン）（2022年12月24日）
- [26] 滋野哲秀、“気象分野のミスコンセプションと教科書記述との関連性—気象防災の観点から見た教科書記述の危うさ”、第76回日本地学教育学会全国大会島根大会（松江市）（2022年8月22日）
- [27] 滋野哲秀、“「大気の状態が不安定」を学んでいない学生たち”、日本気象学会秋季大会（札幌市）（2022年10月25日）
- [28] 滋野哲秀、“「気象分野のミスコンセプションと中学校教科書記述との関連性」、第15回日本気象予報士会研究成果発表会（オンライン）（2023年2月26日）
- [29] 稲永祐介、“環境危機へのアラート—生物多様性の保全をめぐるフランス政治”、日本国際政治学会 2022年度研究大会（仙台市）（2022年10月29日）

### 3. 受賞リスト

- [1] 須川恒、第22回山階芳麿賞（2022年7月22日）
- [2] 高桑進、環境大臣賞（2022年6月10日）

### 4. 報道掲載リスト

- [1] “学生への自然体験学習20年 高桑さんに環境大臣賞”、朝日新聞、2022年5月30日
- [2] “SDGs未来へ約束action：里山再生 自然から豊かな恵み”、読売新聞、2022年10月5日
- [3] “ガタリ糸口に現代考察”、京都新聞、2022年11月2日
- [4] “大津で「大戸川ダムと治水」勉強会 嘉田由紀子氏らダムの有効性について検証”、京都新聞、2022年12月25日

### 5. ホームページによる研究成果の公表等

- [1] URL: <https://www.ryukoku.ac.jp/nc/news/entry-10131.html>  
2022年2月25日に開催した京都弁護士会公害・環境委員会 第74期選択型実務修習（自然保護部会）について、龍谷大学HPのニュースとして公開した。  
公表日：2022年3月7日
- [2] URL: <https://www.ryukoku.ac.jp/nc/news/entry-10200.html>  
2022年3月13日に開催した里山学研究センターオンラインシンポジウムについて、龍谷大学HPのニュースとして公開した。  
公表日：2022年3月13日
- [3] URL: <https://www.ryukoku.ac.jp/nc/news/entry-10201.html>  
2022年3月に刊行した2021年度里山学研究センター年次報告書について、龍谷大学HPのニュースとして公開した。  
公表日：2022年3月16日
- [4] URL: <https://www.ryukoku.ac.jp/nc/news/entry-11143.html>  
2022年7月20日に開催した里山学研究センター公開研究会について、里山学研究センターおよび龍谷大学HPのニュースとして公開した。

公表日：2022年9月13日

[5] URL: <https://www.ryukoku.ac.jp/nc/news/entry-11230.html>

2022年9月7日に開催した里山学研究センター公開研究会について、里山学研究センターおよび龍谷大学HPのニュースとして公開した。

公表日：2022年9月22日

[6] URL: <https://www.ryukoku.ac.jp/nc/news/entry-11272.html>

2022年9月24日に開催した高桑先生 環境大臣賞受賞記念講演会について、里山学研究センターおよび龍谷大学HPのニュースとして公開した。

公表日：2022年9月28日

[7] URL: <https://www.ryukoku.ac.jp/nc/news/entry-11234.html>

2022年9月16日に開催した京都弁護士会 公害・環境委員会 第75期選択型実務修習（自然保護部会）について、里山学研究センターおよび龍谷大学HPのニュースとして公開した。

公表日：2022年9月29日

[8] URL: <https://www.ryukoku.ac.jp/nc/news/entry-11501.html>

2022年10月20日から22日に開催した大阪大学次世代挑戦的研究者育成プロジェクト共催国際イベントについて、里山学研究センターおよび龍谷大学HPのニュースとして公開した。

公表日：2022年10月31日

[9] URL: <https://www.ryukoku.ac.jp/nc/news/entry-11912.html>

2022年12月21日に開催したJST-JICA SATREPS マラウイ湖国立公園における統合自然資源管理に基づく持続可能な地域開発モデル構築プロジェクト共催後悔研究会について、里山学研究センターおよび龍谷大学HPのニュースとして公開した。

公表日：2022年12月27日

## 6. その他

[1] 西脇秀一郎、愛媛県「入会林野コンサルタント（法律部門）」

[2] 西脇秀一郎、愛媛県土地家屋調査士会「境界問題相談センター愛媛」調停委員

[3] 西脇秀一郎、中日本入会林野研究会編集委員

[4] 猪谷富雄、（一般社団法人）フラワースサイエティー園芸大学・花と緑の学び舎運営委員

## ■ 6. 研究論文





## ■ 7. 活動日誌



## 活動日誌

### 1. 運営会議

- 1) 第1回運営会議 (2022年5月20日開催)
- 2) 第2回運営会議 (2022年6月24日開催)
- 3) 第3回運営会議 (2022年6月30日-7月1日開催) ※E-mail審議
- 4) 第4回運営会議 (2022年7月22日開催)
- 5) 第5回運営会議 (2022年9月13日開催)
- 6) 第6回運営会議 (2022年10月11日開催)
- 7) 第7回運営会議 (2022年10月31日-11月1日開催) ※E-mail審議
- 8) 第8回運営会議 (2022年11月21日開催)
- 9) 第9回運営会議 (2023年1月16日開催)
- 10) 第10回運営会議 (2023年2月開催予定)

### 2. シンポジウム

- 1) Chaososemedia in Japan 2022 (2022年10月22日開催)  
大阪大学次世代挑戦の研究者育成プロジェクト主催、里山学研究センター共催

### 3. 研究会

- 1) 第1回研究会 (2022年7月20日開催)
- 2) 第2回研究会 (2022年9月7日開催)
- 3) 特別公開研究会 (2022年9月24日開催)
- 4) 第3回研究会 (2022年12月21日開催)
- 5) 第4回研究会 (プロジェクト最終研究成果報告会) (2023年1月14日開催)
- 6) 第5回研究会 (2023年2月20日開催)

### 4. 里山サロン

- 1) 第1回里山サロン (2022年4月12日開催)
- 2) 第2回里山サロン (2022年6月25日開催)
- 3) 第3回里山サロン (2022年7月27日開催)
- 4) 第4回里山サロン (2022年10月10日開催)

---

里山学研究  
「人新世」を生きるわたしたちと自然のこれから

龍谷大学 里山学研究センター  
2022年度 年次報告書

---

2023（令和5）年3月 発行

（編集・発行） 龍谷大学 里山学研究センター  
（代表者 センター長 村澤真保呂）  
〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67  
TEL：075-645-2154 FAX：075-645-2240  
<http://satoyama.kenkyu.ryukoku.ac.jp/>

（制 作） 河北印刷 株式会社  
〒601-8461 京都市南区唐橋門脇28  
TEL：075-691-5121



龍谷大学 里山学研究センター  
2023年3月